

日本中国語学会々報

2002年5月

ご挨拶

理事長を引き受けることになりました神戸大学の中川正之です。中国語関係の専門を持たぬ学部
に所属しておりスタッフも手薄で何かと行き届かぬところが多いかと存じますがなにとぞよろし
くお願いいたします。幸い相原前理事長が事務作業の一部を外注するなどシステム整備に尽力され
ました直後のことで事務局の負担は格段に軽減されております。それでも日々の対応に追われてお
ります。改めてこの学会を支えてこられた先輩方のご苦労に思いを致しております。学会員も1,100
名を超え、毎年100名前後の新入会員を迎える状況にあります。

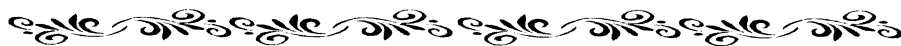
今年度は懸案でありました日本学術会議の学術研究団体登録申請を行なう予定であります。また
8月20日～22日愛知県立大学において国際中国語学会が開催され本学会からも多くの方が様々
な形で参加されています。日本中国語学会が文字通り内外に認められた学会としてさらに発展する
よう中継ぎ役を果たしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

学術研究団体登録申請では会員・役員における男女比が問われております。外国人参加の比率を
高めることが望まれているとも側聞いたします。このような流れに対してもこの学会が遅れをとら
ないよう対処していかなくてはならないと考えております。

学会50周年を記念して設けられた奨励賞も第3回の受賞が決定いたしました。この賞に関する
内規の制定も急がねばなりません。若手研究者の定義など、もう少し経緯をみて明文化したほう
がよいと思われるものがあり、今回は内規案の提出を見送りました。

2002年5月

日本中国語学会理事長 中川 正之



会議報告

■ 2002年度第1回『中国語学』編集委員会 (3月19日 お茶の水女子大学)

出席：相原茂(理事長) 佐藤進(委員長) 荒川清秀 遠藤光暁 佐藤晴彦 中川正之
『中国語学』投稿論文の査読者割り当て作業を中心に

■ 2002年度第2回『中国語学』編集委員会 (4月28日 神戸勤労会館)

出席：佐藤進(委員長) 荒川清秀 遠藤光暁 佐藤晴彦 中川正之

1. 『中国語学』249号投稿論文の審査

有効投稿論文41編について査読報告書にもとづき審査の結果、15編を掲載することに決定した。

2. 第3回日本中国語学会奨励賞

審議の結果、248号掲載論文筆者のなかから1名を奨励賞受賞候補として常任理事会に推薦するこ
とに決定した。

3. 「執筆要領」の整備について

現行の「執筆要領」では、投稿原稿の注の文字の大きさが指示されていないので『中国語学』に
ならってポイントをおとす投稿がままある。注についても本文と同じ大きさで書くことを明示す
る(会誌印刷の時点でポイントをおとす)。また、参照文献について、現行のサンプルには不統一
や誤植等があり適切を欠くので改めて書き直す。特に、投稿原稿には参照文献の初出情報と再録
情報を明確にしないものが散見するので、その書き方が明確に分かる例をかかげる。

4. 査読委員の補充と外部委託について

近年の投稿には、理論言語学の枠組みによる研究、方言文法の研究などの増加傾向がみられる。

また、形式上においても、日本人筆者による中国語原稿が増加しつつある。こうした局面に対応するため、ネイティブスピーカーをも含む査読委員を十数名補充することが提案され、候補者を次期の委員会に推薦することにした。また、投稿論文によっては会員以外の専門家に査読を依頼することができるようにし、そのことを内規に明示する。

5. 査読委員の割当てについて

投稿論文1編につき、原則として3名の査読委員が査読を行なうが、そのうちの1名は必ず編集委員をもって充てることとする。

6. 不採用の投稿について

不採用の投稿について、査読委員が執筆者に申し伝えたいということがあれば、査読委員の匿名性を確保しながら伝達することにする。ただし、それに対する投稿者の反論等は受け付けない。

7. 査読委員の公開について

上記4ないしは6の実施にともない、査読委員の氏名は当面公開しないこととする。このことについては、しばらく実施した上、いずれ改めてその是非を検討することにした。

8. サマリーと英文標題のチェックについて

サマリーの文章（使用言語を問わず）と英文の標題については、編集委員会の責任において、然るべき人にチェックを依頼するようにする。

9. 編集委員会の交替について

中川正之委員と佐藤晴彦委員は退任し、常任理事会との合同会議で後任を選出することにした。

■ 2002年度第1回常任理事会（編集委員会合同会議）（4月28日 神戸勤労会館）

出席者：中川正之(理事長) 相原茂 荒川清秀 遠藤光暁 木村英樹 輿水優 佐藤進 佐藤晴彦 杉村博文 ; 小野秀樹 澤田浩子

1. 事務局移転問題について

金融政策の変化に伴い、通帳名義の変更などの手続きが煩瑣になっており、今回も一ヶ月の時間がかかり、事務局移転後の活動に支障があった。事務局を理事長改選の度ごとに移転するのかどうか検討時期に来ている。

2. 編集委員長の常任理事会出席について

編集委員長の常任理事会への出席を認めることが確認された。

3. 第3回日本中国語学会奨励賞について

第2回編集委員会「2. 学会奨励賞」の審議を受けて、関光世氏「“V 給” 文の意味特徴に関する考察」に決定した。

4. 編集委員の改選について

中川委員と佐藤晴彦委員の任期満了退任の後任として、古屋昭弘氏と杉村博文氏にお願いすることにした。

5. 編集委員長の職務について

編集委員長の職務については、作業の便宜性を考慮した結果、佐藤進編集委員長が遂行された範囲を、次期委員長にも踏襲してもらう方向で考えることにした。

6. 編集委員会等の日程について

3月中旬に編集委員会、ゴールデンウイーク直前に編集委員会と常任理事会を開催し、その間に査読をするというスケジュールは委員にとって過酷であり、『中国語学』の印刷・製本に要する時間から考えても、委員会開催の日程はもう少し後にずらすことができそうである。秋の全国大会の開催時期も含めて、学会の年間スケジュールについて、抜本的な見直しをしても良いのではないか。

7. 査読委員について

編集委員会での以下の決議が報告・了承された。

(1) 次号より査読委員の氏名は誌上に公表しない。

(2) 投稿論文の属する研究分野に鑑み、編集委員会の判断において非会員に対しても査読の依頼ができることとし、この点を内規に明記する。

(3) 査読委員の充実をはかるため、10名前後の候補が挙げられた。

(4) 査読委員の停年制、委員の補充・削除については会則には明記せずに、編集委員会の申し送り事項

とする。ただし、顧問・名誉会員に査読をお願いすることは原則として今後は行なわないことが確認された。

付記：上記(2)に関連して、査読については、原則的には学会内の委員で判断が下せることが望ましく、常時外部に依頼するようでは無理がある。新しい分野の論文を掲載すると、その後一挙にその分野の投稿が激増する可能性もあり、扱いは慎重にするべきである、との意見が出された。

8.編集委員の宿泊費補助について

第2回編集委員会は例年第1回常任委員会の直前に開催されているが、投稿原稿の増加や奨励賞候補者の決定など審議すべき事項が多く、遠方の出席者は前日の宿泊を余儀なくされている。前日の宿泊が必要と認められる場合は宿泊費を補助することが了承された。

9.幹事の全国大会前日の宿泊料を事務局経費とする件

常任理事についてはすでに了承されているが幹事についても同額を支給することが承認された。

10.顧問の推挙

理事長より、各常任理事に対して、該当者推薦の依頼があった。

11.理事の改選について

新理事の候補者が委員より挙げられ理事長が委嘱することとなった。会誌の印刷に間に合わせるため、本人の了承を得られたら承認するものとする。

12.次回の常任理事選挙について

理事長から選挙法改正案が提出され、審議の結果、「4名連記で得票数上位8名を常任理事の当選者とし、最も得票数の多かったものを理事長とする」という案を次回理事会・総会に提出することが了承された。

13.留保金の扱いについて

定額預金（郵便局）の満期時期を迎えるが、再継続とすることが確認された。

14.日本学術会議の学術研究団体登録申請について

登録申請用紙には会員数・役員数、大会参加者数などの記入欄に男女別の数を記入しなければならないので、今後留意すること、また今回の登録申請に際して業績報告が必要な役員は常任理事と編集委員に限定することが了承された。

15.「日本中国語学会」と名のる団体について

略称を「中国語学会」あるいは「日本中国語学会」と名乗る民間団体がありホームページを開設している。アクセス回数も異常に多く、本学会との混同されている恐れがある。審議の結果、理事長名で当該団体に抗議文を送付することとした。

16.ホームページの開設について

2の問題は本学会がホームページを開設していないことが混乱の原因の一つである。本学会もHPを立ち上げる必要があるが、セキュリティーやメンテナンスなどの問題も多い。この件については、理事長がソフトアカデミズム委員とも相談しつつ検討する。

17.ソフトアカデミズム委員会および電腦中国語フォーラムについて

遠藤理事から、6月27日から7月1日に渡って開催されるシンポジウム・講習会・公開授業の日程と内容などに関する詳しい説明がなされた。

(1)会計は原則として独立採算とするが、赤字が発生した場合は10万円を限度とし本部事務局より補填することが承認された。

(2)先日出版された同委員会の報告誌『日本の中国語教育』について、理事長より学会本部で5万円分を目途として買い取り、海外の教育・研究者など、しかるべき所に配布したいという提案がなされ、承認された。

(3)上記(1)のフォーラムに関する広告文章を、学会のニューズレターに同封することと、6月号の雑誌『中国語』等に「お知らせ」を掲載することが承認された。

(4)同委員会の活動は、今回のフェアをもって終了することが報告された。

18.学会会員名簿について

今年改訂の学会会員名簿用の調査票に「男・女」を明記する欄があるか確認し、無ければ加える。また、メールアドレスに誤植や変更されたものが多く、メールを送っても約半数が届かないとの報告があった。

19.「中国語教育学会」の立ち上げにともない、興水理事から学会の宛名ラベルを提供してほしいとの要望が出され、審議の結果承認された。

日本中国語学会役員・委員 (2002～2003 年度)

(下線は新規役員)

顧問	大河内康憲	鐘ヶ江信光	芝田 稔	波多野太郎		
理事長	中川 正之					
常任理事	相原 茂	荒川 清秀	木村 英樹	興水 優	佐藤 晴彦	
	杉村 博文	平井 勝利				
理事						
〔北海道支部〕	黒坂 満輝	邢 志強				
〔東北支部〕	何 治濱	長尾 光之	花登 正宏			
〔関東支部〕	阿部 兼也	植田 渥雄	遠藤 光暁	大川完三郎	大島 正二	
	大塚 秀明	釜屋 修	川俣 優	小島 久代	桜井 明治	
	佐藤 進	佐藤富士雄	讃井 唯允	史 有為	瀬戸口律子	
	高橋弥守彦	千島 英一	陳 文芷	新田 幸治	菱 沼 透	
	古屋 昭弘	松村 文芳	守屋 宏則	矢野 光治	山下 輝彦	
	楊 凱 榮	吉田 隆司	依 藤 醇	ラマルル・クリスティーン		
	渡邊 晴夫					
〔北陸支部〕	大滝 幸子	菊田 正信	中村 雅之	山田 真一		
〔東海支部〕	荒川 清秀	岩田 礼	鶴殿 倫次	黄 名 時	中島 利郎	
	中鉢 雅量					
〔関西支部〕	伊井健一郎	岩田 憲幸	岩本 真理	内田 慶市	大内田三郎	
	太田 齊	川口 榮一	日下 恒夫	張 黎	中川千枝子	
	西川 和男	原 由起子	平田 昌司	古川 裕	村上 嘉英	
〔中国支部〕	郭 春 貴	狩野 充徳	富平 美波	松尾 善弘		
〔四国支部〕	小林 立	方 経 民				
〔九州支部〕	岩佐 昌暲	佐藤 昭	西 紀 昭	秦 耕 司	山田 敬三	
会計監査	原 由起子	森 宏 子				
幹 事	小野 秀樹	澤田 浩子				
編集委員	荒川 清秀	遠藤 光暁	佐藤 進	杉村 博文	古屋 昭弘	

■ ソフトアカデミズム委員会報告

昨年の大会でお認めいただきました『日本の中国語教育』(定価 1500 円+税、好文出版)が予定通り 2002 年 3 月に刊行されました。寄稿者数が 100 名以上にのぼり、アンケートにご協力いただいた方々も合わせると更に多くの皆様のご協力を賜り、心より感謝いたしております。ただ、ご寄稿いただいた方々のお一人づつに出版の案内とお礼状を出すことができず、失礼してしまったことが心残りですが、どうぞご寛恕のほどお願いいたします。なお同書は全国の普通の書店からも取り寄せられますのでどうぞ多数ご注文いただけると幸いです。

2002 年度会費 (5,000 円) 納入のお願い

振替用紙を同封しておりますので、本年度会費 (5,000 円) を最寄の郵便局からお振り込みください。事務の運営上、2002 年 6 月 30 日までにご入金くださるようご協力をお願いいたします。郵便振替 加入者名: 日本中国語学会

口座番号: 00120-2-536256

なお、これまでの会費を未納の方は振替用紙に記載してありますので、一括してご入金くださいますようお願いいたします。また、記載された納入金額が 20,000 円となっております方は、今年度ご入金いただけませんと会則《会費納入に関する内規》に基づき除籍となりますのでご注意ください。

学会事務局 〒657-8501 神戸市灘区鶴甲 1-2-1

神戸大学 国際文化学部内

TEL/FAX 078-803-7402 (直通)